

宮城県立がんセンター広報誌



2023.07 Vol.5

せりなべ

駆け抜けたあの日々
今日もまた駆ける

おしえてせり爺！
さい帯血移植を知る

宮人ハ語ル
血液内科医師 原崎 頼子



毎回がんセンターのスタッフに焦点を当てて、その人物に自身の思いを語ってもらおう。今回は、血液内科の原崎頼子先生に語ってもらいます。

みやびと 宮人ハ語ル



はらざき 原崎 頼子 医師

プロフィール

宮城県第二女子高等学校、弘前大学医学部卒。
宮城厚生協会坂総合病院で研修後、1997年～1999年まで国立がんセンター中央病院血液内科、東京都立駒込病院血液内科で研修。
2004年6月から宮城県立がんセンター血液内科に入職。現在に至る。

学生時代

中学、高校と6年間はバスケットボール部に所属していました。といっても、身長が157cmしかありませんでしたので、速攻要員としてただひたすらコートの中を走り回っていました。大学は青森の弘前大学に入学し、ここでもバスケットをしようと思っていたのですが、当時弘前大学には医学部女子のバスケットがなく、「全学（医学部以外）の部に入ると試験日程が違うから大変だよ」と言われ、「せっかく弘前に来たからスキーをしよう、初心者でも大丈夫だよ」という言葉に騙されて競技スキー部に入部しました。「スキー部は夏にはなにもすることないでしょ、夏は水泳をしよう」と言われ、なんと水泳部（もちろん競泳）に

も入部しました。

お世話になった先輩に文句を言うつもりはありませんが、競技スキーなんて初心者がなにかなるものではないと思います。というか、私にはできませんでした。かわりにあったのは、ノルディックスキーです。渡部暁斗選手がジャンプのあとに長いストックをもって滑っているアレです。ノルディックのスキー板は、軽く、エッジもついていないので、はじめはスキー板の上に立つだけでも大変でした。慣れてくると真っ白な雪原を汗をかきながら走るの結構気持ちの良いものです。

また、他の部員が誰もやっていないので、大会では部員全員から応援してもらおうというメリットもあります。仲間がポールをかついで登っていくなかで一人山の中を走り続け、5年生の北医体（北日本の医学生生大会）では優勝することができました。また夏の暇つぶしは水泳の選手コースに入ってもらい、地元のスイミングスクールで選手コースに入れてもらい、中学生に交じってせっせと泳ぎ続けた結果、東医体（東日本の医学生生大会）では4年生の時に新種目となった女子400M自由形で3連覇することができました。



血液内科への転職

大学時代はこのように忙しく過ぎてしまい、卒業した時には将来何科になるのか、という大きな問題を決めかねていました。故郷の宮城県に帰ることだけは決めていて、あちこち見学した結果、意外と自由にローテート研修が組める坂総合病院に入職しました。当時坂総合病院には内科輪番という制度があり（今でもですか？）、循環器、呼吸器、消化器の内科3科以外の内科入院患者さんは内科医で順番を決めて受け持つ、というシステムでした。血液内科との出会いは研修1年目の4人目の受け持ち患者さんでした。

その患者さんは50代の急性骨髄性白血病のKさんでした。当時毎週土曜日にN T T東北病院の血液内科の専門医であるS先生が専門外来「血液外来」を行っていて、血液疾患の患者さんの主治医は土曜日にS先生と相談し、その週の治療方針を決めるということになっていました。急性骨髄性白血病の治療は最初の寛解導入療法が最も強力です。抗がん剤投与後約10日後から血球減少が起り、免疫不全状態に起因する感染症の管理が最も重要なポイントになります。抗がん剤の副作用で血球がぐんぐん下がり、好中球（白血球の一部、感染防護に重要な働きをしています）が0%になる頃にはKさんは連日38度から39度台の熱が出て元気がなくなりました。坂総合病院の指導医の指示に従い抗生剤の投与を行います。熱がなかなか下がりません。意味もなく病棟内をうろろし、土曜日になると血液外来にすっとなんていって、「Kさん、熱がぜんぜん下がりません。どうしたら良いんでしょう？」「先生、好中球が0の間はねー、熱は下がらないんですよ」と言われ、すごすご戻ってくる日々。そんなことを数週間続けたある日、

温度板をみると、Kさんの熱が下がっている。病室に行くのと、昨日までぐったりしたKさんが、心なしか元気に見え

る、昨日とは違う！！11時頃に上がってくる緊急検査結果をみると、「N（好中球） 1%」、好中球が0ではなくなっている。「やったー！！好中球がでてきたあぁ！！！！」夏のプールで、電光掲示板を振り返った時と同じ興奮が、吹雪のなか、仲間の待つゴールエリアに滑り込んだ時と同じ喜びが頭の中をぐるぐる回っていました。好中球があるのとなんか違うのか？好中球と名付けられたあの小さな球体の持つパワーにぐいぐい吸い寄せられている自分を感じました（実はもっと複雑な細胞間ネットワークがあることを後で知ってなお一層興味を持つことになりました）。

ほどなくKさんは元気に一時退院し、S先生からは「おめでとー、この患者は先生が治したんだね」とのお言葉をいただきました。これが私と血液内科との出会いです。その後「血液が好きに変った研修医」と呼ばれ、内科輪番の血液疾患をどんどん受け持たせていただくようになりました。あちこちの病棟で「好中球があっ！！」と叫びながら研修期間が過ぎ、紆余曲折はありましたが、呼吸器科病棟内に10床の血液内科用のベットをいただくまでになりました。

宮城県立がんセンターに入職して

お話をいただいたのは、2003年の冬だったと思います。宮城県立がんセンターの血液内科が1名欠員となり、とても困っているのです。県立がんセンターに来ないか、とのお話です。正直かなり悩みました。なにもないところから看護師さんと勉強を重ねて血液内科の診療を作り上げていました。でも、はまりにはまった血液内科に集中できるのなら、とお話を受けることにしました。

入職した2004年6月、県立がんセンター血液内科ではちょうど同種骨髄採取施設認定の申請のための準備が佳

境に入っていました。入職したとたん「先生、この書類とこの書類とこの書類、〇〇日まで（1週間後くらいです）お願いしてもいい？」「えー？？」の状態でした。

2005年6月に第1例目の同種造血幹細胞移植（臍帯血移植でした）を施行、骨髄バンクドナーの骨髄採取術は2005年9月から開始となりました。長らくの懸案事項だった同種造血幹細胞採取施設認定も2023年4月に認定され、これですべての種類の同種造血幹細胞移植が可能となりました。この間、個人的には結婚、出産、長男の子育てにも追われた、あつという間の19年間でした。

チーム医療で挑む同種造血幹細胞移植

同種造血幹細胞移植はハイリスク、ハイリターンの治療です。生着前・後の様々な合併症に対応するためには様々な職種によるチーム医療が必要です。また、生着して終わ

りではなく、慢性対宿主移植片病（慢性GVHD）、ドナーの細胞と患者さんの体の間に起こる免疫学的不具合を原因とする病態）の管理、最近問題となっている2次がんの問題等、長期間の通院、管理が必要となります。2018年2月から造血細胞移植コーディネーター（HCTC）が活動を開始し、ドナー、移植患者の術前、術後の調整から移植後の生活のフォロー、生活指導まで一貫してかわってもらっています。採取時には臨床工学士に全面的に協力いただき、採取した幹細胞は輸血管理室で管理されています。2023年4月から、より安全な造血幹細胞移植を目指す。幹細胞製剤も輸血システムでの管理を行うことになりました。移植前後の口腔内の合併症には歯科の存在が非常に重要です。また、移植後の味覚異常等の問題には栄養管理室に細やかに対応していただいています。そして非常に好都合なことには血液内科病棟である6階病棟の横にリ

今後について

ここ最近の血液内科診療の進歩は目覚ましく、血液内科の治療は複雑化しています。血液内科の患者数は増加を続けており、当科がいかに必要とされているかを強く実感させられている日々です。当センターの強みを生かし、今後の発展につなげていけるよう、努力していきたい、と考えています。



医師 佐々木 治 院長

大変なことをお願いしても、いつでも「まかせなさい!」。ずいぶんと助けていただきました。明るくて笑顔。豊富な運動量。義理と人情の姉御肌で正義感が強い典型的な「血内女子」。大変な事もたくさんあるはずなのに、人前でつらそうな顔は見せません。私にはとても真似できません。素晴らしいといつも思っています。強くなければ生きていけない、優しくなければ生きていく資格がない。これからも大変だと思いますが、一緒に笑顔で頑張っていきましょう。



看護師 浦山 里美さん

原崎頼子先生は、がんセンター勤務が20年になりますから、がんセンターの顔と言っても過言ではないでしょう。

さらに原崎先生＝「俊足」です。風のように病棟と外来を歩き来し、あつという間に仕事をこなして去っていきます。まるで忍者の様です。プライベートで買い物中の先生を見掛けた時も、あつという間に遠くへ行ってしまう、声をかけるタイミングすらありませんでした。

高らかな笑い声と笑顔で、患者さん方だけでなく私たち職員にもパワーを与えてくれています。これからも一緒に、全力で、患者さん方に寄り添った医療の提供に取り組んでいましょう。



頭頸部外科 浅田 行紀

頭頸部がんの治療について

頭頸部がんは脳の下側から鎖骨までの範囲に含まれるがんです。頭頸部がんの特徴は生活の質に直結するがんということです。例えば、舌がなくなればしゃべる食べるに障害が起きます。味覚も失った舌の大きさによって、なくなってしまう。心臓や肝臓のように、なくなれば死ぬというような臓器ではありませんが、社会生活を送る上でとても重要な役割を持つ臓器にできるがんになります。

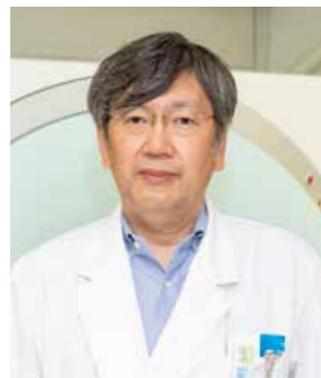
そのため、がんを治すということと同時にいかに治療後、社会生活の維持を図るかが非常に大切になっています。機能温存というのは臓器温存と表現されたりします。そのままの状態が残すということです。放射線治療をおこなったり、抗がん剤治療を行ったりします。手術の場合には切除する範囲を工夫します。再建と

持つてきて、機能の温存を目指します。患者さんによっては二種類もしくは全部行うこともあるのですが、放射線治療や手術、抗がん剤治療どれを行っても、副作用や後遺症が残ることがあるのでリハビリも大事です。

そのため、たくさんの専門家が集まってチームを作り、最善かつ最良の医療を適切に行うことが今の頭頸部がん治療の最前線になっています。まず、医者だと診断を付ける放射線診断科、放射線治療をする放射線治療科、手術の再建治療をする形成外科、がんを取り除く外科、合併症の予防や治療後の機能維持に大切な義歯を作成する歯科、抗がん剤治療を行う頭頸部内科（腫瘍内科）と医者の専門家だけで最低6科、それ以外に、もちろん看護師、薬剤師、食べ物の工夫を協力して行う管理栄養士、検査部や体のリハビリを行う理学療法士、しゃべる練習や食べる練習のリハビリを行う言語療法士と全病院挙げておこなっています。

1人の患者さんにかかわる専門家は10人以上になると思います。たくさん専門知識と情報、努力で少しでも患者さんに良い予後、良い機能を残すことを考え治療を行っています。

ドクターは伝えたい「がん」のこと



放射線診断科 及川 秀樹

放射線診断科とAI

放射線診断科は、CTやMRI

放射線科医が担当する読影数が多く、作業の効率化が課題となっています。

などの画像診断機器を用いた診断に特化した診療科です。放射線診断医は撮影された画像を専門家の視点で解析、診断（読影）します。その診断結果は各診療科の医師に報告書のかたちで届けられ、治療方針を立てるために役立てられています。近年の診断機器の進歩は著しく、特にがん診療においては病変の発見から病期診断、治療効果判定、合併症の評価、再発診断のいずれの局面でも画像診断の果たす役割は非常に重要です。日本は世界有数のCT、MRI保有国ですが、人口あたりの画像診断スキルを有する放射線科医師数はOECD加盟国の中で最下位とされています。そのため、1人の

そこで診断の質を高めつつ医師の負担を軽減するために導入された技術のひとつが、人工知能（Artificial Intelligence: AI）による画像診断支援です。当センターでもCTでの肺結節病変の検出、肺や肝臓の区域診断の補助、臓器の体積測定、骨シンチグラフィにおける異常集積部位の検出などにAIを利用し診療に役立てています。AIによる画像診断の精度向上は著しいものがあり、今後は放射線診断医の負担軽減のほか、医師不足の地域でAIが画像診断を行うなど保険医療の水準向上が期待されています。



さい帯血 移植を知る

目で見るさい帯血移植の流れ

① 冷凍されたさい帯血を ケースから取り出します。



② 解凍後さい帯血を パックから抜き取りします。

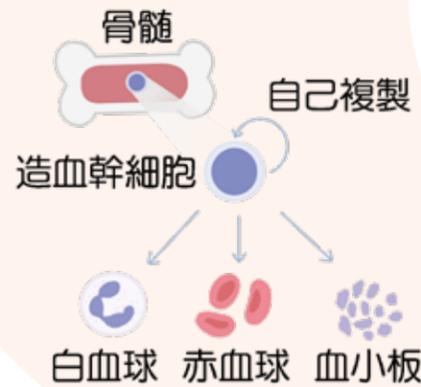


③ 取り出したさい帯血を 患者さんの静脈から輸注します。



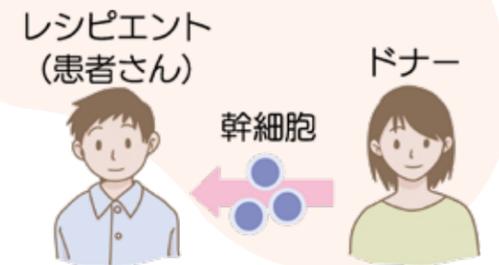
はじめに造血幹細胞とは

主に骨髄に存在し、赤血球、白血球、血小板といった様々な血球に成長していくいわば血液の源といえる細胞じゃ。



造血幹細胞移植とは

病気になった骨髄細胞を正常な骨髄細胞に置き換えることにより、正常な造血機能を回復させる治療じゃ。HLA（ヒト白血球抗原）という白血球の型を合わせる必要があるのじゃ。



造血幹細胞移植の方法

骨髄移植、末梢血幹細胞移植、さい帯血移植の3つがあるのじゃ。



さい帯血移植とは

胎盤からへその緒に残っている「さい帯血」にも造血幹細胞がたくさんあるのじゃ。この「さい帯血」を患者さんに移植することで正常な造血を回復させることができるのじゃ。



血液製剤の峯！血液管理室

ここでは大切な輸血用の血液製剤と移植用の造血幹細胞の管理を適正な温度で24時間行っています。

治療のために採取された幹細胞を、調整することや移植まで凍結保管することは、細胞の品質を管理する上でとても重要なことです。造血細胞移植用の細胞は代用がきかない大切なもの。血液管理室では細胞治療認定管理師が徹底した品質管理を行い臨床支援しています。



足りてる？血液製剤

白血病、再生不良性貧血の治療では、定期的な輸血が行われます。つまり、1人の患者さんの命を何人もの献血者で支えているのです。

血液には生きている細胞が入っているので長期保存ができません。そのため、絶えず多くの方の献血協力が欠かせないのです。

今後は、献血可能（16歳から69歳まで）人口の減少と血液需要の増加が見込まれるため、更なる献血への理解と協力が必要です。

献血は「命をつなぐボランティア」ご理解とご協力よろしくお願いたします。



せり爺の孫「せりみちゃん」

みやとも 宮友ト語ル 医療法人尚真会 たんのクリニック



たんの なおき
院長 丹野 尚昭

宮城県立仙台第一高等学校、東北大学医学部を卒業後、由利組合総合病院の研修を経て、東北大学旧第3内科に入局。膵臓グループで胆道、膵臓疾患を診療。研究では、胆嚢胆石、慢性膵炎、高脂血症等の胆汁酸測定等を行った。東北労災病院、旧町立大河原病院、旧宮城社会保険病院勤務を経て、平成9年、たんのクリニックを開設。

クリニックの紹介

当クリニックは消化器疾患、内科疾患を中心に診療しています。

消化器疾患は上部消化管、肝疾患、胆道、膵臓疾患を中心に、年間に上部内視鏡検査を約370例、腹部超音波を約500例、頸動脈超音波を150例位行っています。ピロリ菌の除菌後でも胃がん発生はゼロにはならないというのが、残念ながら最近のトピックスです。本間にそうなのかなと考えていましたが、当院でもこの4年間で、除菌後の患者3名に胃がんがみつかりました。2名は毎年検査をしていたので早期で、内視鏡治療で済みました。もう一人の方は、多用で2年後に検査を受けま

した。残念な事に、手術となりました。除菌が成功した患者さんには、毎年の検査を勧めています。

この3年間で、4例の膵臓がんをみつけました。2名は、最近の血糖上昇が発見の契機でした。1名は、全くの無症状で偶々超音波検査を行ない発見しました。これは早期の膵臓がんとは心はやりがんセンターに紹介し速やかに対応して頂きましたが、手術の結果はステージIIでした。膵臓がんの診断の難しさを今更ながら思い知らされました。下手の横好きで下腹部も同時に診ています。全く無症状の膀胱がん、卵巣がん、子宮筋腫、腎臓病変も時々、見つけています。何年か前、高血圧で定期的に通院されている患者さんの胸部レントゲン撮ったところ、右肺に少量の胸水が疑われました。胸水の原因は思

い当たらず、呼吸器内科に紹介しました。結果は、卵巣がんの肺転移でした。驚きでしたが、患者さんを丁寧な診察する事の大切さを学びました。患者さんは今も御元気でセンターに通院中で、当院にも高血圧、ワクチン接種等で通院中です。

内科では、高血圧、糖尿病、高脂血症等を中心の診療です。糖尿病は、私の得意分野の一つです。消化器内科の医師が糖尿病を診察する事は、あまりないでしょう。しかし、昔所属していた旧第3内科は、消化器と糖尿病を診療する医局でした。病室も一緒、教育ベツドもあり、糖尿病グループの先生に色々教わりました。

最近では、脳血管疾患、虚血性心疾患でステントの入口した患者、抗凝固剤を内服している患者さんも増えてきました。広く対応しています。特定健診、胃がん検診、新型コロナウイルスの集団、個別ワクチン接種、発熱外来等々、地域医療に深く関わっています。

がんセンターに期待する日々

がんセンターの先生方、スタッフの皆様には常日頃、大変御世話になっており、これ以上望む事は特にありません。患者さんを紹介すれば、丁寧で詳細な御



返事を頂き治療内容や、治療のポリシーが良く理解できます。私も、大病院を含め20年の勤務医生活を経験しているので大変さは良く分かっていきます。限られた状況の中で、奮闘されていると理解しています。私の専門である胆道、膵臓疾患、又、肝臓病でも、全ての紹介患者を診療してもらっています。治療後、定期通院している患者さんには検査結果の、コピーを渡して頂き、私達はそれを見て現在の治療状況が理解できます。患者さんとの会話の中身が深く、私達の追加の説明で治療内容が更に良く理解できます。「ああ、そうなんだ」と納得して帰る患者さんは多いです。早期胃がんで内視鏡治療で終わった患者さんは安心して戻って来ます。外科手術となった方も、外科医の手術説明を受けて納得されています。呼吸器内科の先生には、がん以外の慢性呼吸器疾患にも診療して頂き、状態悪化の際にも迅速に対応して頂き感謝致しております。

現在、4病院統合の問題で落ち着かない日々を送られている事と思います。多くの方が納得できる結論になる事を願っています。基礎研究部門の東北大学医学部への移転には、名取市医師会会長として強く反対し、県には苦言を呈しています。



診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	/
14:30～17:30	○	○	/	○	○	/	/

基本情報

- 【休診日】 日曜日・祝日
- 【診療受付時間】 9:00～12:30 / 14:30～17:30
- 【電話番号】 022-381-5233
- 【住所】 〒981-1231 宮城県名取市手倉田字諏訪 599-1
- 【診療科】 内科、胃腸科

公式HP



ぶらり書架めぐり

in 名取市図書館

【 か 「く」 し 「ご」 と 「 】

住野 よる / 著 新潮社

背ラベル N913.6 3
資料番号 011231456



みんなには隠している、少しだけ特別な力を持った高校生 5 人。別に何の役にも立たないけれど、そのせいで、クラスメイトのあの子のことが気になって仕方ない——。彼女がシャンプーを変えたのはなぜ？ 彼が持っていた「恋の鈴」は誰のもの？ それぞれの「かくしごと」が照らし出す、お互いへのもどかしい想い。甘酸っぱくも爽やかな男女 5 人の日常を鮮やかに切り取った、共感必至の青春小説。



名取市図書館 HP

みやがん広報室からのお知らせ

ご意見・ご感想の募集

広報誌「せりなべ」に関するご意見・ご感想を募集しております。下記のフォームから皆さまの声をお寄せください。

投稿フォーム



SNS アカウントを開設しました

LINE



ぜひご登録
ください。

Instagram



がん情報ラジオのお知らせ

当センターでは、がんセンターのスタッフががんに関する話題を紹介していくラジオ番組「がん情報ラジオ」をエフエムなとりにて放送しています。

放送時間は、毎週金曜日夕方 5 時 30 分から 5 時 44 分、翌日土曜日の午前 9 時 16 分から 9 時 29 分に再放送も行っております。



せりなべ 編集後記

全国に医師は約 34 万人（令和 2 年 12 月届け出）、その中の女性医師は約 7 万 7 千人で 22.8% であり、年々増加傾向にある。特に若手医師の中で女性の増加は顕著であり、医学部に入学者に占める女性の割合は約 3 分の 1 ともいわれている。地域によっては半数近くを女性が占める大学もあるだろう。

しかし地方病院では女性医師の割合はまだまだ高くはなく、我々ががんセンターも常勤医師 74 名中、女性医師は 11 名で 15%（令和 5 年 6 月時点）と全国的には低い数。その中でも今月の宮人である原崎先生は、長きに渡りがんセンター女医、改め宮ジョイを引っ張ってこられたお一人である。ご専門の血液内科診療以外にも院内の様々な業務に携わっておられ、本当に忙しい身でありながらもいつも明るく的確にスタッフを導き、診療を進めている姿はとっても格好よく憧れの存在だ。

他の宮ジョイを紹介すると、大量の仕事をかかえいつ家に帰っているのか心配になる K 先生、才色兼備の W 先生 & S 先生、一人科長で奮闘されている I 先生、その他精鋭メンバー達。働き方や家庭、それぞれ異なる状況で仕事をしている私達だが、がん治療医として一線に働くことに責任と覚悟を持って臨んでいることは皆一緒だと思う。

原崎先生、そろそろ宮ジョイ集会しませんか？

文 海法 道子

○せりなべの料理人

編集委員長：海法道子 副委員長：猪岡京子、小山洋

編集委員：鎌田真弓、渡邊香奈、明円真吾、佐藤美和、佐々木めぐみ、吉野敦、小野暢子、後藤夕子、齋藤星河、鈴木柊孝

写真・構成：鈴木柊孝

知ってる？/ がん専門薬剤師の オンライン

がん専門薬剤師とは

がん専門薬剤師とは、がん治療に関する知識や技術、経験をもつ専門性の高い薬剤師のことを言い、日本医療薬学会という学会が認める認定資格です。がん専門薬剤師になるためには、5 年間の研修または臨床経験と筆記試験、がん患者さんと関わったことを示す症例要約 50 例分を提出し、審査に合格する必要があります。がん治療におけるがん専門薬剤師の役割としては、抗がん剤治療の説明だけでなく、治療中の副作用の確認や副作用対策の提案、抗がん剤の投与量の確認、肝臓や腎臓の働きによって抗がん剤の投与量を調節することなど、非常に多岐に渡ります。医師や看護師など多職種と連携しながら、がん治療が安全に進むようにサポートしています。

宮城県立がんセンターにはこのがん専門薬剤師が 4 人在籍しており、病棟や外来で活動しています。同じ「がん専門薬剤師」という資格を持っていても、それぞれ得意とする分野は異なります。

聞いてみた がん専門薬剤師として心がけていること

<p>つちや まさみ 土屋 雅美</p> <p>Answer 治療に対して不安や心配な気持ちが少しでも軽減できるように、分かりやすい説明を心掛けています。 チーム医療の力で、治療がスムーズに進むようにサポートしていきます。見かけたらいっでもお声がけください。</p> <p>得意分野 ・抗がん薬の副作用対策 ・アピランスケア</p> <p>休日の過ごし方 ・釣り</p>	<p>みかみ たかひろ 三上 貴弘</p> <p>Answer 自分の学んだことを、しっかりと患者さんへ還元する心がけています。 がん+循環器疾患（高血圧症など）を合併している方へも微力ながら、サポートできるかと思っておりますので、遠慮なくお声がけ下さい。</p> <p>得意分野 ・循環器領域</p> <p>休日の過ごし方 ・キャンプやスノーボード</p>	<p>うちだ たかし 内田 敬</p> <p>Answer 患者さんに薬を説明する際は専門用語を避け、理解の得られやすい言葉を使って表現するように心がけています。 治療に関することで気になることがございましたら、お気軽にお声がけください。</p> <p>得意分野 ・抗がん薬の副作用対策</p> <p>休日の過ごし方 ・掃除、散歩</p>	<p>はやし かつひさ 林 克剛</p> <p>Answer 少しでも安全かつ安心して治療に臨めるように、薬剤師としてできることを、全力で取り組んでいます。 また、緩和ケアチームのメンバーとして身体的な痛みや気持ちのつらさなどの苦痛を緩和できるような心がけています。不安なことやつらいことがございましたら、遠慮なくお声がけください。</p> <p>得意分野 ・副作用の症状緩和 ・疼痛緩和</p> <p>休日の過ごし方 ・子供と外遊び、耕作</p>
---	---	---	--

※アピランスケア…見た目のケア、医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア



広報カメラが切り取る
がんセンターの日常
みやふおと

撮影 広報担当 鈴木



宮城県立がんセンター広報誌
せりなべ 夏号 2023年7月1日発行 vol.5

みやがん広報室 **検索**

本紙はホームページからでもご覧いただけます。

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山 47-1
<https://www.miyagi-pho.jp/mcc/>
【広報誌に関するお問合せ】 ☎ 022-384-3151 (代)